

# メルクマールの空

正体不明の怪人がヒルコを攫うという都市伝説を、キャストたちが追う推理シナリオ。君は、事件の真相にたどり着くことができるだろうか？

(掲載日：2015.12.29)

## プレアクト情報

## PRE-ACT INFO

### ■シナリオ基本情報

#### ▼作者

ゲームアニメ部 F J C (twitter : @FJC\_Sophia)

#### ▼プレイヤー人数

3～4人

#### ▼想定プレイ時間

3～4時間

#### ▼シナリオタグ

ヒルコ、企業、推理もの

### ●このシナリオについて

本シナリオはヒルコと都市伝説、そして企業を取り扱ったミステリ仕立てのシナリオだ。情報を集め、推理し、真相……つまりは犯人が誰で、どこにいるのかを探し当てるゲームである。

### ●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。使用するデータの変更や RL が調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

#### ▼使用経験点

0～200 点程度

#### ▼達成値制限

制限なし

#### ▼スタイル制限

特になし

### ■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

イカれた都市伝説にまみれるストリートの闇に、今日はとびきりの噂が流れている。

曰く、「一人の怪人がよなよなヒルコを攫ってる」んだという。

どんな怪人かって？

語られる怪人の外見の詳細は、「学ランを着た男」、で「チアガール」、で「パンツスーツの女」、……こんな感じ。

笑っちゃうよな、こんな特徴を兼ね揃えた同一人物がいるか？ ふざけたゴシップにも程がある。でも、ストリートのヒルコが一人一人と消えていっているのは確かな事実だ。

「怪人さん」は、ヒルコを攫って、一体何をしようっていうんだろう？

人間だけが選び取るから、選び取ってこそ人間だ。置いてけぼりにされた思い出は、懐かしいだけのあの空で、ずっと誰かを待っている。

トーキョーNOVA THE ACCELERATION  
『メルクマールの空』

## ■キャスト作成

### ●クイックスタート

以下のサンプルキャストを使用することが可能だ。

『①ヒルコ』：内なる怪物（『TOS』p52）

『②カゲ』：災厄のカゼ（『TNX』p92）

『③トーキー』：遊撃記者（『TNX』p88）

『④カブト』：不落の守護者（N／Cオリジナル）

### ●特記事項

『②カゲ』には「ある医者と月一で少し話をする仲」という設定がつく。

また、『③トーキー』には、「かつてとあるネットゲームにおいて姫プレイをしていた」という設定をつけさせて貰うため、おそらくとくに新規キャラが望ましい。(\*)

### ●特別ルール

このシナリオでは、プレイヤーが事件の詳細を調査し、真犯人がいると思われるアドレスを指定して、実際に真犯人がいる場所を襲撃することでクライマックスシーンが発生する。間違えた場合、その場で致死的な戦闘が、神業による襲撃が発生する。

### ●特別システム「インヴァルネラブルオーバードライブ」

誰かが三種いずれかの死を迎えた時、カブトかその本人を幽霊状態にすることで、その死を無効化できる。幽霊状態と

は、ありとあらゆる行動ができず、ありとあらゆる効果の対象にもならず、ロールプレイだけができる状態。

幽霊状態は、このシナリオのエンディングフェイズで解除される。プレイヤー全員が幽霊状態になった際、このシナリオはそれ以上進展しなくなり、終わる。

### ●プレイヤーが3人の場合

『①ヒルコ』か『④カブト』を抜くこと。その場合、該当するキャストはRLが操るNPCとなる。判定などは行わず、推奨サンプルキャストが保有する神業を、プレイヤーたちの合議により使用可能。

### ●必要な神業

防衛系神業五個以上推奨。

### ●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会：ストリート〉〈社会：企業〉などである。

## ■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。

『①ヒルコ』→『②カゲ』→『③トーキー』→『④カブト』→『①ヒルコ』

(\*) 各キャストの導入について

すべてのハンドアウトにおいて、RLが適当に所属と依頼を変えても問題ない。姫プレイを行っていたのが『④カブト』であっても問題ない（ただし活躍の場が多少偏る）。

# アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。  
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

『①ヒルコ』：ストリート住み。

『②カゲ』：ストリート住み。とある闇医者（このシナリオのオリジナルキャラクター）と知り合い。

『③トーキー』：立場は自由。かつて、とあるネットゲームにはまり込んでいた。

『④カブト』：企業に所属している。

### ①推奨スタイル：ヒルコ

SCENARIO HANDOUT

コネ：推奨なし

推奨スート：特になし

ある日君は、周囲にいる友人のヒルコ達が、だんだんと消えていってことに気付いた。気付いた瞬間、君はその場から逃げた。君は消えなくなかったからだ。逃げ続けた君は、やがて『②カゲ』の保護下へと落ち着いた。『②カゲ』がどういう意図で君を保護したかはわからないが（『②カゲ』が決める）、君は自分の身の安全の確保をしたいと、あるいは消えたヒルコたちの敵が取りたいと思っている。

【PS：生き残る or 敵討つ】

### ②推奨スタイル：カゲ

SCENARIO HANDOUT

コネ：推奨なし

推奨スート：特になし

ある日君はなんらかの形で『①ヒルコ』を確保した。『①ヒルコ』はどうしてもヒルコたちの敵が取りたいのだという。しつしつとか積極的にはわからないが、君はその手助けをすることになる。

【PS：『①ヒルコ』の手助けをする】

### ③推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：推奨なし

推奨スート：特になし

君はマスメディアの一員として刺激のあるニュースを日々探している立場だ。そして当然ながら今ストリートで大人気の学ランでチアガールな怪人を調べることになった。明らかにチープすぎるくだらない噂だが、そういうものにこそ時には裏に大事件が潜んでいるものだ。いやいやとか積極的にはわからないが、君はその事件のセンセーショナルな報道を追い求める。

【PS：噂の真相を知る】

### ④推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：推奨なし

推奨スート：特になし

君は大企業のもとで戦闘系の工作員として働いている。そして上司いわく、巷で起こっている「ヒルコ狩り」に、某企業の息がかかっている、という噂がある。君はその事件の仕掛け人をこの世界から消すが、根が葉を見つけて何もなかったと報告しなければならぬ。

【PS：案件「ヒルコ狩り」を処理する】

# RL用テキスト

TXT4RULER

## ■ストーリー

IANUS連動体感型MMORPG「メルクマール」。過去、農耕や洗濯までできるこのゲームに、『③トーキー』ははまり込んでいた。『③トーキー』はメルクマールをプレイしていく中で、その魅力によって、さまざまな人に好かれていっていく。その中には、役職「パラディン」の、とあるプレイヤーがいた。「パラディン」は『③トーキー』を「姫」と慕い、追い回した。その慕いように不気味に感じた『③トーキー』は、彼と絶縁する。引きこもりのパラディン「アレノ・トガウミ」は、その際の『③トーキー』からの一言をばねに、あるいは糧にして、メルクマールを通じて知り合った、同じく『③トーキー』を好きだった「ラウド・コロミヤ」と二人、力を手に入れよう（そして姫をいつか迎えに行こう）と決意する。

現在、すでにテラウェア社内である程度の権力を

握り、エクゼクとして大成したトガウミは、さらなる力を手に入れようと画策している。軍へのアプローチ。コロミヤを政治家として祀り上げ手に入れる権力。そして、思うがままに動かせる強力な私兵。

キャストたちは、兵隊を必要とするトガウミとコロミヤが、レッドエリアのヒルコを拉致していく事件を原因として、それぞれの理由からトガウミの野望に関わることになる。キャストたちがトガウミを発見し打ち倒し次第、アクトは終了する。

## ■クライマックスの条件

プレイヤーたちが「トガウミのオフィス」を選択し襲撃する。

# オープニングフェイズ

OPENING PHASE

## ●オープニング1：定期検診

シーンプレイヤー：『②カゲ』

登場：不可

### ◆解説

『②カゲ』のオープニング。『②カゲ』が知り合いの闇医者（タタラ◎●、ニューロ、ミストレス。名前とキャラは適当に、ここではE1とする）に「『①ヒルコ』を引き取ったんだって？」と言われる。近いうちに『①ヒルコ』を連れてきてほしい、と。

### ◆描写

時期は現在。君は知り合い以上友達未満の医者の医務室にいる。君は自分の体のメンテナンスのために、数年前から月一くらいでここに来て、十五分程度、軽く話す間柄だ。

いつものように君の商売道具を診たあと、五分程度の世間話を終えて、E1は、「そういえば、君、ヒルコの女の子（男の子）を引き取ったんだって？」と言う。

▼セリフ：E1

（肯定した場合）「やっぱりか」

（否定した場合）「否定しても無駄だよ、ネタは上がっているんだ」

「ま、君が人を助けた武勇伝は今回だけのものじゃないからね、今回も結局そいつを助けるんだろ？」

「ヒルコか。……今度、ここに連れてくるといい。君

の恋人の顔が、見てみたいからね」（この一行は絶対に言うこと）

### ◆結末

検査終了となり、シーンも終了。

## ●オープニング2：ヒルコ・ミーツ・ノヴァ

シーンプレイヤー：『①ヒルコ』

登場：不可。『②カゲ』は自動登場

### ◆解説

『①ヒルコ』のオープニング。(※1)『②カゲ』が医者から帰ってくる直前、『①ヒルコ』は皆がいなくなってしまった時のことを回想し、やっぱり皆がどうなってしまったのか知りたい、安全なあそこでもう一度暮らしたい、皆の敵を討ちたい、このうちどれかを強く思い、『②カゲ』に協力を乞う。『②カゲ』は断っても良い。その場合は以降『②カゲ』のシーンを行わず登場判定による登場のみとする。

### ◆描写

時期は現在。君は『①ヒルコ』の部屋で一人である。電気を付けずに、目を閉じて、思い浮かべる。『①ヒルコ』に拾われた日のことと、これまでのことを。（適切な場所で『①ヒルコ』は『②カゲ』に拾われる）

そういう経緯で、キミは、今、ここにいる。

ある友人は、翼が生え、口の右側が溶けてしまっ

(※1) オープニング2について

オープニング1とセットになっている。構成・演出上の意図はあるのだが、いきなり拾っていたことにされたことに対し『②カゲ』のプレイヤーがテストプレイの際反感を抱いていた。その際アドリブで出会いの場面を作って先にやることにした。

ていた。そいつは、聞いた限りの話ではすごく悲惨な生まれだったのに、君には会うたびに笑いかけ挨拶した。ある友人は、獣の毛が全身に生えていた。そいつは、唯一無二の大切な人ってほどじゃないけれど、ヒルコになりたての頃の君に（まだ幼い君に）それとなくいつも世話を焼いてくれた。ある友人は、右手から先がなくなって、よくわからない不定形のぶよぶよになっていた。まだまだあどけない子供で、誰もが世話を焼いてあげていて、そいつは笑顔でそれに答えていた。

皆、皆、いなくなってしまった。

一人や二人がいなくなることなら、ヒルコたちには日常茶飯事だ。けれど、その三人を超えて、周囲のヒルコの子供たちは、明らかに数を減らしていた。

『①ヒルコ』は、そのことについて、どうしたい？（『①ヒルコ』の動機を聞く）

そこに『①ヒルコ』が帰ってくる。『①ヒルコ』は、『②カゲ』を説得する。シーン終了。

#### ◆結末

『①ヒルコ』は、ポケットの中のなけなしの1シルバーを取り出し、それを使うことにする。プレイヤー側が拒否したら、この1シルバのくだりはなくしてもよい。

### ●オープニング3：怪人

シーンプレイヤー：『③トーキー』

登場：不可

#### ◆解説

『③トーキー』に、上司が「巷を騒がしている怪人を追ってくれ」と依頼する。「怪人がヒルコを狩っている」という噂ではなく、「怪人が出た」という噂だけを、『③トーキー』はここでは認識する。

#### ◆描写

時期は現在。君は大きな仕事を終えたあと、君の所属するオフィスで、君の上司に呼び出された。

▼セリフ：『③トーキー』の上司

「まずはお疲れ様だ。早速次の事件についてなんだが、お前は【ストリートの怪人】のことを知っているか？」「なんでもチアガールで学ランでパンツスーツな怪人、だそうだ。完全にイカれちまってる都市伝説だが、わりと各種SNSでもその話で持ちきりだ。この話の裏が取れば、きっとうちにとってプラスになる。お前にやってほしい」

「そうか！ 頼むよ。頼りにしている」

#### ◆結末

さてどうしようかと思いつきながら歩いていると、唐突に目の前に、【メルクマール】のIANUS 連動音声付き広告が表示された。

君は懐かしさを感じた。それはかつて君がプレイしていた、IANUS 直結体感型インターネットゲームだった。

上司は君に取材費として1ゴールドを与えた。

### ●オープニング4：オーバードライブされたシナリオ

シーンプレイヤー：『④カブト』

登場：不可

#### ◆解説

『④カブト』に上司が、ヒルコ狩りを止めることか、あるいはこの会社の利害に関わらないことの論拠が根拠の提出を命じた。

#### ◆描写

時期は現在。君は家で待機していたところ、上司に呼び出され、君の机がない広く慌ただしいオフィスで、机に座った昔なじみの上司から命令を貰っている。

「巷ではヒルコがどんどん姿を消しているという。なんらかの会社のなんらかの動きかもしれないし、そうじゃないかもしれない。ただ、戦闘にはなりそう」

「戦闘ができ、（ニューロの心得もある、など適当に）お前が適任だ。背後を洗え。誰を使っても構わん」「さっさと仕事をしろ、お前は仕事をする事しかできないのだからな」

君は雇われのカブトとして仕事を始める。

「そうだ、これを持っていけ」

君は小さな黒いお守りのような機械を渡される。

「新製品の試作品だ。【インヴァルネラブル・オーバードライブ】とかいうコードネームがついている。実践データが欲しいんだそう。お守り代わりに持っていけ。邪魔なら誰にも拾われないように捨てろ」

君はそれを受け取ってもいいし、受け取らなくてもいい。

#### ◆処理

システム「インヴァルネラブル・オーバードライブ」を開放するかどうかはここで『④カブト』に決めてもらう。

#### ◆結末

上司は君に費用として1プラチナムを与えた。また、【ヒルコ狩り（企業側の視点）】が開放される。



## リサーチフェイズ

## RESEARCH PHASE

## ●イベント1：世界の果て

条件：ある研究員のアドレスを訪ねる。

SR：グリーン

## ◆解説

墮胎児事件の顛末について知る。現在の BIOS にその余力はないと思われる。

## ◆描写

君はグリーンエリアの小奇麗な集合住宅の玄関前に来た。

(アポイントメントは取っているか？ と PC に聞き、取っている場合)「いらっしゃいませ」受け応えたのはヒルコの少女だった。「『@カゲ』さんですね、中へどうぞ」

(取っていない場合)「……どなたですか？」少し警戒しながら受け応えたのは幼いヒルコの少女だった。少女は追い返そうとするが、中にいる30前後の男が君たちの会話の中のヒルコという言葉には食い付き中に招く。

男はヒルコの少女を下がらせて、茶を出した。

## ▼セリフ：男

「墮胎児事件についてか。すごく不愉快な事件だった。僕は僕の技術に敬意を示してちゃんとした給料で引き抜いてくれた BIOS 社にそれなりに忠誠を誓っていたんだ。だけど、ある時、だんだんと周囲の価値観が歪み始めたことに気付いた。なんというか、抗えないんだよ。今思えば、多分何かの特別な技術だったのかも知れない。これ以上の技術革新のためには、もうモニターを募るだけじゃダメなんだ、生きたヒルコを、いくらでも使い潰せるヒルコを、用意しなければならぬ。絶対に、と、誰もがいつの間にか思っていた。そしてそのことに、僕自身すら気付けなかったんだ」「やがて山のように少年少女の肢体が積み重なった時、そして彼女が怯えた目を僕に向けた時、やっと目が覚めた。目の前の惨状は何だって。何かしなければならぬという気分になったんだ。そこで僕はトーキーの知り合いやニューロのコネを使って、何とか BIOS と戦ったのさ。……なんて、本当に誇らしく『戦ったのさ』とか言いたいなら、そもそも始まりの地点で自制を効かせなければダメだったんだだけだね」

「墮胎児事件の顛末はこんな感じだ。ほかになにか聞きたいことはあるかい？」

(ヒルコ狩りについて)「知っている。あの子は心を痛めているよ。僕は……何かを思う資格はないと思っている」

(ヒルコの少女は性別を変えられるか、という質問に対して)「……。質問の意図がよく分からないが、繁殖の役割的な意味なら無理だ。外見なら変えられるよ。

たとえば彼女なら簡単だ。彼女は僕が魔改造してある。BIOS 社にいた時に、色々なものを勝手に使ってね。逃亡できたのも彼女という武力があったからだ。彼女に出来ないことはない。彼女は最強のヒルコだよ(誇らしげに)。代わりに、ちょっと大食いになっちゃったけど。そこも可愛いものさ」

(BIOS 社を疑っているようなことを言われる)「ああ、確かに BIOS ならやりかねないね。今の BIOS がどうかまではわからないけど……昔の友人とも、連絡が取りづらいからね。一応、当時の情報についてのファイルをひと通りまとめてあとで送るよ」

(少女に何か不審な点はないかと聞かれる)「そうだね。彼女は……多分……(ちらっと、遠めの声が聞こえない場所で待機していたヒルコの少女を見てから、声を潜めて)今も戦っているんだ。BIOS の追手とね。たまに室内が荒れているし、たまに血の臭いがすることまである。……僕から見て、それらしいものはそれくらいかな」

(二人はどういう関係か？ と聞かれる)「彼女は僕にとって特別な人だ」

(帰る)「またいつでも来てくれ。おーい、お客様がお帰りだ。見送ってくれないか？」

## ◆結末

玄関先で、ヒルコの少女が

「どういう話があったかはわかりませんが、今こうして私がおだやかに生きていけるのは、あの人が助けてくれたからです。そして私もかつての同胞を助けたいと思う。いつでもここへ来て下さい」と言い、PC が何らかの反応をして、シーン終了。

## ◆処理

舞台裏で、BIOS 社を犯人と断定し襲撃するためのアドレスを入手。また、以降、ある研究員のアドレスを襲撃可。

## ■あるヒルコの少女

ヒルコ◎●=ヒルコ=ヒルコ

—「彼女に出来ないことはない。彼女は最強のヒルコだよ」  
—一度大好きな人との未来を選びとったヒルコ。強い。

## ▼データ

〈隠密〉3 〈白兵〉4 〈射撃〉4 〈回避〉4 〈生体アンテナ〉4  
〈鱗の王〉3 〈牙の王〉3 〈瞬間適応〉1 〈透明化〉3 〈カメレオン〉2  
〈再生レベル〉4 〈咆哮〉3 〈守りの強化〉4 〈乱振〉1 〈獣の気〉2  
〈領域〉3 〈環境適応体〉1 〈インビジブルレベル〉1 〈貫通撃〉3  
〈守護本能〉1  
AGITO 生体武器：爪 生体武器：銃 ネクター：好きな場所 B&G  
アンチボディ キメラウイング

## ●イベント2：遠い夜空

条件：目撃者 E2 のアドレスを訪ねる。

SR：レッド

## ◆解説

目撃者 E2 に、誘拐事件の話聞く。PC に、夜に行くか昼に行くか、と聞くこと。

## ◆描写

まず昼に行くか夜に行くか PC に聞く。理屈を聞かれたら、ヒルコは夜行性であるが、夜のレッドエリアは無関係な戦闘が起こる危険性が増すためと答える。

昼に行く。廃墟で、E2 は君を待っていた。

「やー、懐かしいね。元気してた？ 皆皆、いなくなっちゃってさ。突然連絡が来た時はびっくりしたよ。息をひそめて生き残ってたかいいがあったってもんだ」

「誘拐事件ね。思い出したくもないけど」

「夜、いつもみたいに店の残飯をあさろうと思ったんだ。君も知ってる通り、私には親友がいてね。まあ親友っていうか生きるための相棒って言うようなかんじだったんだけど、とにかく一緒に行動していた。けど、いつもの場所を回しているときに、突然、『変な匂いがする』って言い出して。見てくる、って言って、まあ警戒するのは悪いことじゃないからさ、わかった、って答えて。でも、全然戻ってこなくてさ。私も一緒に行けば良かったんだろうなあ、ってずっと思うよ」

「他に何か聞きたいことある？」

(変な匂いについて聞く)「さあ？ よくわからないけど……メスなのに、オスの匂いだ、って。意味はさっぱりわからないけど……犯人のことなのかな。意味はさっぱりわからないけど」

「そっか。私も借りが返せるなら一緒に行きたいけど、最近怖いんだ。どうも、私も狙われている気がする。また会えたらまた話をしようね。ストリート暮らし脱出、羨ましいな」

PC が何らかの反応をして、シーン終了。

夜に行く。

連絡のあった地点に到着したが、そこには既に誰もいなかった。

(『①ヒルコ』のみ)よく分からないけど、きっとヒルコ狩りだ。

(『①ヒルコ』と『③トーカー』が合流済み)PC が周りを調査すると、ここにいたヒルコが怪人に攫われたことが、なんらかの形で判明する。

怪人の目撃情報はいつもの通り、大きく三パターンに分かれている。

PC が何らかの反応をして、シーン終了。

## ◆結末

プレイヤーが昼を選んでも夜選んでも、このシーンが終わったら、E2 は消息不明になる。

## ●イベント3：カーライルの参考人

条件：カーライルの作務員のアドレスを訪ねる。

## ◆解説

メルクマールについての噂を知る。

## ◆描写

君は薄暗くさびれたバーに着いた。名前の無い、誰も知らないようなバーだ。そこにはもうレッガーが到着していた。服飾は地味だが評判のいいブランドのスーツで、全身から常に抑えきれない危険な雰囲気を出している。

## ▼セリフ：レッガー

「よお『④カブト』。メルクマールの買収と、そこへんのカーライルの内部事情について聞きたいってな」「まあ、アレだ、いつもの通り、ぼかすような言い方しかできねえぞ。俺が『④カブト』の所属企業)の情報がほしい時のそっちもそうなんだから、おあいこだよな」

「そもそもカーライルは、特にメルクマールについては何も思っていないんだよなあ。大体出来の良いオモチャとしかメルクマールを思っていない。本当は世界を二倍にするってことは、市場の規模も二倍にするってことなんだが……ま、多分トップのトップはへえ、メルクマール、面白いなこれ、くらいは思ってると思う。が、多分あの子では現場監督くらいはどうでもいいかと思っているだろう。黒い噂は立ちようがないな」

「で、あるとすれば逆にメルクマール社自体が怪しいんだ。あそこに、実は実行部隊みたいなのがついてきたんだよな、意外にも。質は悪くない。明らかに、ジョークで付けたってレベルではない」

「もう一度【メルクマール社の非合法的な噂】を徹底的に洗ってやることをオススメすらあ。我々はとりあえず、よくわからんわ。そもそもカーライルシンジケートとメルクマール社を買収した某企業に関わりあいはいりません、だ。メルクマールを【買収しようとしている会社】があつてよ、上は売る気まんまんだ、そうなりゃもはや我々とも関係ねえ」

そして、何かを書いて、わざとらしくその紙を落とす。

「っと、落し物をしてしまったな。今度俺に届けてくれや。無論他の誰にも見せるなよ？ 用が済んだらさっさと燃やせ」

## ◆結末

PC が何らかの反応をして、シーン終了。

## I (E2)

ヒルコ○、ミストレス●、カブト

## ▼設定

「は一、お月様が眩しいなあ。今日は何かいいことありそうだー！」

かつて『①ヒルコ』と同じ共同体で暮らしていたヒルコ。

## ●イベント4：とあるメディアの参考人

条件：あるトーキーのアドレスを訪ねる。

### ◆解説

ある役員についての噂を知る。

### ◆描写

君は評判のよい間接照明の上品に効いたバーに着いた。そこにはもうトーキーが到着していた。出で立ちはロングに帽子で、若々しい。実年齢は三十を過ぎているが、何も言われなければ、そして着ているモノが実はちゃんとしたブランドであると見抜けなければ、二十以下と思ひ込む人間すらいるかもしれない。

### ▼セリフ：あるトーキー

「やっ、元気？（『④カブト』とハイタッチを交わす）  
テラウェアのことに私に頼ったのは正解だよ。情報産業で私に勝る人間はこの業界にはいないよ。たぶんね」

「新役員のことについて、か。アレノ・トガウミくんだね。技術系の即戦力として中途採用でテラウェアに入っていき、めきめきと頭角を表した期待の新人だね。期待のっていうのは、黒い噂的な意味で」

（黒い噂の具体的内容）「さー。いろいろ競合相手が消えちゃったりしたみたいだね。あんまり具体的な内容には意味はないと思うね。役員クラスなら誰でも、黒い噂は流れるよ。重要なのは、別の役員とか同業他社とかと比べてどのくらい黒い噂の量と質があるかだよ。その意味でトガウミくんはすごい怪しさはあるね。何をやってても驚かないね」

（トガウミが頭角を現した時期について質問される）  
「いや、えっとね。待ってね。……一ヶ月前くらいかな？」

（「技術系の」についての詳細）「中途採用の技術者枠……というかな。まあアレだよ。経験者のみ募集という名の、奴隷募集。よくあるよね」

（トガウミとラブドの関係性）「二人なんだけど……これは裏のない情報だから、参考程度に。多分、ラブドさんがトガウミくんの秘書だと思う。論拠は、こっちが裏が取れている情報だけど、二人が同じオフィスに出入りしていることと、二人が同時期から勤務を始めていること。トガウミくんの急成長は、ラブドさんを通じて政府や軍と繋がった結果ではないか……かな？  
なんてね。ほとんどのところはわからないけど」  
（一つ以上の質問をした場合、別際に）「そんなに怪しいなら、突撃取材をしてみるんだね」トガウミのオフィスのアドレスを入手。

### ◆結末

PCが何らかの反応をして、シーン終了。

## ●イベント5：讀える歌

条件：E1の診療所に『①ヒルコ』が行く。

SR：レッド

### ◆解説

『①ヒルコ』が治療される。

### ◆描写

E1の診療所へ行くと、いきなり『①ヒルコ』が拘束された。

「やあ、君が『②カゲ』の恋人か。少し用があってね。何、痛いことはしない。少し、麻酔で眠って、手術台の上に立って貰うだけだよ。嫌なら攻撃しても構わないけど、私は強いよ？」

プレイヤーの反応を待つ。

（攻撃した場合）《電脳神》で拘束。まだまだE1に手札はあるというようなことを言って、怪しいと思わせつつも、神業は使わせないようにやりわり誘導する。

「さて、それじゃあ痛かったら右手を上げてね。眠ってるから上げられないとは思うけどね」という声が手術室の中から聞こえる。

しばらくして、手術室の中からE1が出てくる。からからと『①ヒルコ』の乗ったベッドが出てくる。

### ▼セリフ：E1

「読んだ通りだ。君の恋人、頭の中に面白い機械を入れる癖があるみたいだ。ハイテクなやつだね。多分テラウェア社製かな。面白いことに、誰かが彼女の不快をいつでも調整できたみたいだね。ぼちっとボタンを押せば超強烈な夢見心地で、ぼちっとボタンを押せばこの世すべての反吐をかき集めたような不快が彼女を襲ったんだ。あれはどんなに一本気の通ったやつでも抗えないと思うね。ストリート流の何かのプレイかな？ ま、私の開発したタイムリーな検査機器にかければ、チープな技術だったけれどね」

「まあ実際こういうヒルコは多いんだ。ほら、マグロにGPSをつけて生態調査みたいなのってあるだろう？」

レッドエリアのヒルコは、三割程度が寝てる間に何か仕込まれてるのさ。僕の『②カゲ』とその恋人に、何かあっちゃまずいと思ってね」

「そういえば、麻酔から覚醒しかけのとき、彼女は繰り返し何かのフレーズをサミングで歌っていた。録音しておいたから、『①ヒルコ』の覚えていたフレーズを調べれば、何か今君がやりたいことが見つかるんじゃないかな、と思う」

「頑張るんだよ、『②カゲ』」

### ◆結末

PCが何らかの反応をして、シーン終了。

## ●イベント6：未だ選び続ける者から

条件：ある研究員のアドレスを襲撃する。

### ◆描写

時間帯を選ばせて、適当に襲撃させる。夜だろうと曉だろうと、ヒルコの少女は起きています。

窓を音を立てないように割ると、ヒルコの少女がリビングにすでに座っている。誰かの殺気を動物的な勘で察知して、起きていたのだ。

「貴方達でしたか」微妙な顔をする。この場合は過去が追ってきたというのかなあ、と溜息をつく。

「……誤解です、と言っても無駄でしょうね。貴方達は信念を持ってここに来たわけだ。ならば私もそれに応えます。あの人のために、過去と、戦い、打ち克ってみせる」

あるヒルコの少女(ヒルコ=ヒルコ=ヒルコ◎●)と戦闘。

### ◆結末

勝った場合「……負けました。どうぞ、好きにしてください。あの人は、戦闘は何もできません。彼の拘束をお願いします。数ヶ月に一回くらいは襲撃がありますから、ここに残すことはできません。そして事件の真相が判明したら、私たちを釈放して下さい。殺すなら、……自決の猶予を下さい」

PCの反応を待つ。

逃げる場合「……あれ？ フェイントですか？……あのですね。……まあいいです」

どの場合でも、最後に「なぜ私が疑われたかについてですが、多分貴方と思っているのとは違い、私は特にヒルコを食べる必要とか、ヒルコを攫う趣味とかはありません。私はほとんど普通の人間と同じです。ただ、ちょっと変な過去があるだけです。少なくともあの人は、私にそう言ってくれました」

すべてが終わったあとに、達成値15の射撃攻撃(「棺」によるもの。命中次第ダメージカードを用いてカット進行中のように判定する)の襲撃。かわすと、別の方向から、紙で石を包んだ原始的な矢文が飛んでくる。紙には「はずれ(笑) クロマクより」(一回目の場合、別の筆跡で「(姫プレイヤー)は今すぐに手を引いて下さい」と書いてある)(2)

## ●イベント7：メルクマールの夕暮れ

条件：メルクマール社オフィスのアドレスを襲撃する。

### ◆描写

君たちがそのオフィスに潜入すると、そのオフィスは空っぽだった。机が一つだけあって、そこに中年でスマートな出で立ちのスーツ男が座っている。「ここには、何も無いよ。かつてはここは確かにメルクマール社の工作部隊の城だった。外の奴は今でもそうだと信じているけどね。ヒルコ達を参考にし

て体感ゲーム技術を発達させようとする欲望は肥大して、ヤバイ奴らに斡旋を頼んで、いつしかコネはきっちりしたものになって、そいつらの中から何人かを雇い始めて、メルクマール社は武力を持った。それが間違いだったんだろうなあ、変なレッガーに目をつけられてしまった。僕は最初からのメンバーだけど、いつからか最初のメンバーは僕だけになってしまった」

「うちの会社はもう終わりだ。メルクマールの空も、すでに夕方が来て、夜になってしまっている。僕も今でも逃げたい。ただ、過去はどこまでも追ってくる。殺してくれて構わないよ。ここには何も無いのだから」

PCの反応を待つ。

### ▼セリフ：スーツ男

殺す場合「楽しかったなあ……そして……ごめんな……」

殺さなかった場合「そうか。……まあ、死ぬことだけが贖罪ではないということなのかな……」

### ◆結末

すべてが終わったあとに、クーデグラによる襲撃(「棺」によるもの)。かわすと、別の方向から、紙で石を包んだ原始的な矢文が飛んでくる。紙には「はずれ(笑) クロマクより」(一回目の場合、別の筆跡で「(姫プレイヤー)は今すぐに手を引いて下さい」と書いてある)。

## ●イベント8：前科者

条件：BIOS社を犯人と断定し襲撃するためのアドレスを襲撃する。

### ◆描写

BIOS本社の双子ビルを舞台に暴れまわる君たちを止めに、連絡通路の大きな廊下で責任者が現れる。「やれやれ、巷を賑やかすヒルコ狩りですか。確かに私共はそういうことをやっていた時期もありましたが、もうそういうことをやる体力がないというのが本音ですよ」

「とはいえ、それだけじゃ引き下がってくれそうにありませんね。皆さん！ 出番ですよ！」

トループだ！ 口々に「客のつまみ出しか！ 退屈な仕事だ」が、一時期のクソみてえな仕事よりマシだな」と言いあっている。

レベル9カタナトループ(16人)×2との戦い。勝った場合「うちの精鋭が……全滅ですか……」「とはいえ、本当に何も無いのですが……」「とりあえず、まあ拘束なりなんなりしてください。ただ、この会社を滅ぼされてはたまらない。まだこちらにも手札はありますが、貴方達は、それと比肩しようようだ。破壊は行わないように、気が済むまで調査していた

### (2) 追伸について

以下プレイヤーには説明不要。この字はラブドのもの。トガウミから情報収集を任されたラブドはすでに(姫プレイヤー)の身元にとどろき着いているが、今はまだ目標の途中ということで、トガウミへ情報を伝えずに止めている。



だければと思います」

調査。達成値で12、15、18。どれを出しても「特に何もなかった」と答える。謝罪してBIOS社を後にする。賠償費用等は適当に。

負けた場合「二度と来んじゃねえぞ」と言われ、つまみ出される。ある程度以上の社会ダメージ。

#### ◆結末

すべてが終わったあとに、達成値18の射撃攻撃(『棺』によるもの。命中次第ダメージカードを用いてカット進行中のように判定する)の襲撃。かわすと、別の方向から、紙で石を包んだ原始的な矢文が飛んでくる。

紙には「はずれ(笑) クロマクより」(一回目の場合、別の筆跡で「(姫プレイヤー)は今すぐに手を引いて下さい」と書いてある)。

### ●イベント9:お茶とお菓子(おいしい)

条件: ある研究員のアドレスを再度訪ねる。

SR: グリーン

#### ◆描写

(襲撃していない場合)

「こんにちは、いらっしやい。事件の進捗はどうですか? あの人はお仕事で出ておりますけど……今、お茶を淹れますね。美味しい茶菓子もありますよ」

ヒルコの少女の歓待を受け、シーン終了。

(すでに襲撃した場合)

RLの裁量で適当に。

### ●イベント10: ヒルコ護衛戦

条件: 『①ヒルコ』と合流後、『①ヒルコ』と別行動を取っている状態で、イベント2が発生した後、現場を張るを選択で時間軸がずれて発動。『④カブト』ただ一人しかこのイベントに参加できない。

シーンプレイヤー: 『④カブト』

#### ◆描写

君は『①ヒルコ』からの話を聞いて、E2に張り付いた。君が怪人なら、絶対にこいつを狙うと思ったからだ。

夜のレッドエリアの、汚い廃墟ビルの片隅で眠るE2の側で、君は(『④カブト』の好きな食べ物で、音の立たないもの)を食べながら潜伏している。

君は(気づけばとうとうと居眠り/か『④カブト』らしい行動)をしていたが、響く足音で即座にカブトの本能から戦闘体勢に入った。

「ひっ、くあっ……」上がりかけたE2の悲鳴は、(おそろく)怪人による一瞬の精神洗浄によって即消えた。

「……たすけて……『①ヒルコ』……」あとに残っ

たのは、消え行く前のわずかな意識によって生まれた、助けを求める小さな声。

プレイヤーに助けに入るかどうかの選択を迫る。どっちかを選んだ場合、本当にそっちの選択肢でいいのか、少し揺さぶる。

(『④カブト』が助けに入らなかった場合で、怪人の姿を確認した場合)

『④カブト』は、注意深く怪人の姿を視認する。熟練の工作員である『④カブト』は、問題なく怪人の姿を確認した。

その正体は、(山札から一枚カードをめくり) 偶数: パンツスーツの女 奇数: チアガール 偶奇の絵札: 学ランを着た男

(『④カブト』が助けに入らなかった場合)

隠密判定15。失敗した場合気付かれる。戦闘は起こらず、《神の御言葉》を食らう。成功した場合何も起こらず。

抵抗した場合そのまま戦闘。抵抗できなかった場合『④カブト』は死亡しE2は消息不明になる。

(『④カブト』が助けに入った場合)

「たすけ……」

「(『④カブト』のRP)」

「王子様気取りか、カブト」

その怪人の容貌は、月明かりに照らされて分かるだけだ。学ランを拘束具のように右手にはめている、上半身がチアガールで、下半身がスラックスの、男?

女? 間近で見ても性別がはっきりとは分からない。分かるのは目鼻のはっきりした美形であることだ。

そして、何らかの不思議な力を感じる。目撃証言がばらついたのは、この力とこの容貌によってだろう(ペルソナ判明)。

「……」

周囲に殺意が充満している。

怪人ヒルコ狩り(パラメーターはラブド・コロミヤ)と戦闘開始。

即死系神業を使用した場合、『④カブト』に警告してから、それでも即死系神業を使った場合、洗脳されたE2が神業を使って身代わりになる。

(勝利した(有効なダメージを与えた)場合)

「……なるほど、大したパラディンだ」ヒルコ狩りはこう呟き敗走。追おうとした場合神業ゴスペル or トガウミの買収等を発動。

「……あっ、ありが、と……」

以下裁量で適当に。

イベント2で昼行った場合に手に入る情報を明かしても良い。

(敗北した(無力化された)場合)

「弱いな……それでは少ないを守りぬくかっこいい男らしいパラディンにはなれないぞ？」

怪人が男とも女ともわからない声でつぶやく。

E2 が連れ去られる。

## ●イベント11：行進曲

条件：ケモセラピーの次の集会場所のアドレスを尋ねる。

SR：グリーン

### ◆解説

ケモセラピー内部でも、ヒルコ狩りが行われていた。怪人に関係あるかは不明。そして氷の静謐の工作員に牽制される。もう来るな、と。

### ◆描写

君はグリーンエリアの街なかの、どこにでもあるような、市有の集会所の中に足を踏み入れた。

入口で詰めているおばさんは特に君たちの風貌を問題視するようなことはなく、貴方たちも新入り？

お互い大変だったわねえ、と極普通の仲間意識を向けてくる。

しかし、「[[[[「殺せっ！]]]]」会場に足を踏み入れた瞬間、吹き上がるような怒号が君たちを包んだ。中年の男女の声だ。腕の良いニューロが、良質なタップの演算機能を以て逆位相の音をぶつけることで、消音しているのだ。

「では、次回のダンザイの段取りをお話する前に、毎回のことではありますが、執行者のご挨拶を頂こうと思います」

仮面を付けた、五人ほどの男女が、司会者の隣まで歩き、軽く挨拶を始めた。名前はどれもコードネームだ。薬品の名前らしい。

「私はマクロライド八です。世界に存在するヒルコという害虫は存在自体が許されない最悪の害悪です。わたくしが、皆様の力を化学力を用いて、一人ずつ駆除してまいります！」

マクロライド八と名乗った女性の声は若かった。若さに溢れた勇ましい言葉を受けて、観客たちは惜しみない拍手を送った。

「こんにちは、皆さん」

自己紹介が進む中、女性が声をかけてきた。見た目年齢は社会人数年生という感じで、服装はスーツをイメージしたと思われるカジュアルなものだ。

〈社会：ストリート〉か〈社会：N○V○A〉で目標値15で、彼女は氷の静謐の一員としてそれなりに名が通っている工作員[E3]であることがわかる。「次もここで集会を行います、ぜひともまたいらしてください。……その前に、あなた方の大切な人を、ヒルコに殺させるプロセスが必要みたいですが」

ただの挨拶という感じではない。彼女は君たちを威圧しに来たのだ。お前たちが望まれない客であることは分かっている。舐めた真似をすると消す、と。

### ◆結末

PC が何らかの反応をしてシーン終了。

ケモセラピーの次の集会場所のアドレスを入手。襲撃可能。

## ●イベント12：誘導された選択

条件：ケモセラピーの次の集会場所のアドレスを襲撃する。または、イベント11の最中に、襲撃を決意する。

### ◆描写

君たちは前と同じ場所にいたが、今度は入口でストップがかかった。入口のおばさんも、何やらよくわからない対応をするだけで、要領を得ない。

(何らかの手段で強制的に入ろうとした場合)「ちょっと、待ってください、焦らないで下さいよっ」(そのまま待っていた場合)「やれやれ、本当に来てしまったのですか……」

「多分、私たちは、あなた達が追っている事件とは違いますよ。私たちがやっているのは、難しいカブトやらフェイトやらが出張してくるような事件じゃない。イヌかヒルコと単純に武力でケンカ、死体はそのまま放置。これが私たちの活動です」

「私たちはヒルコに大切な人間を殺された人間の集まりでしてね。こんな感じで、お互いの傷を舐め合いながら、ひとりでも多くこの世からヒルコの犠牲者をなくすために、ヒルコを駆除して回っているのです」

(復讐は良くない、という言葉に)「うるさい、死ね」(ちゃんとしっかり考えたのか、という言葉に)「考えた！ 考えましたよ！ 朝から晩まで、夜も眠れないくらいに！ 私の前には選択肢がありました。いや、今も目の前にあり続けている。この世のヒルコを一人残らず殺すか、すべてを忘れて、決着も付けずにニコニコ笑って私だけ生きるか。私は復讐を選択し続けますよ、この世界が終わるか、本当に同一性を持った私の恋人がああ腐れ害虫が土下座しながら復活した時まで！」

(襲撃をやめようとした場合)「おっと、逃がしませんよ」

工作員はパチンと指を鳴らす。

その瞬間、催眠暗示と精神掌握によって、会場の人間全員が戦士と化す。

ミストレストループレベル7の50人(近)、マヤカシトループレベル7(遠)の22人と戦闘。

(倒した場合)君たちは会場の人間を皆殺しにしたが、肝心の工作員はどこにも見つからなかった。

工作員本人にとってはともかく、上層部にとって

はトカゲの尻尾として使うことが前提だったのだろう、この組織にはどこにも上の方を迎える手がかりが存在しなかった。

### ◆結末

PCが何らかの反応をしてシーン終了。

すべてが終わったあとに、達成値15の射撃攻撃(「棺」によるもの。命中次第ダメージカードを用いてカット進行中に判定する)の襲撃。かわすと、別の方向から、紙で石を包んだ原始的な矢文が飛んでくる。紙には「はずれ(笑) クロマクより」(一回目の場合、別の筆跡で「(姫プレイヤー)は今すぐに手を引いて下さい」と書いてある)。

## ●イベント13: トイズルジャーズ・ライク・ア・ドラッグ

条件: E2が行方不明になっている状態で、E2の行方の調査をしたいとプレイヤーが言い出した場合。

### ◆解説

E2を探索し、追いかけるものの、ストリート中でヒルコの小隊の襲撃にあう。

彼らは自我を失っている様子だった。

彼らが名乗ったグループ名は、かつて(姫プレイヤー)が所属していたギルドの名前だったことが(姫プレイヤー)がいれば(姫プレイヤー)にのみ分かる。

## ●イベント14: クロスロッド

条件: メルクマール社12とストリートの怪人7開放。

### ◆描写

(電子図書館(本の形をしたものにIANUSが接続できて、デジタルデータを取得できる施設)/ブラックハウンド資料室/その他二人のRP上都合のいい情報施設)に、『③トーキー』と『④カブト』がいる。

二人はすれ違うタイミングで(つまり『③トーキー』がヒルコ狩りを調べている時は『④カブト』が怪人について調べて、『④カブト』がヒルコ狩りを調べている時『③トーキー』が怪人について調べている)調査を進め、はっきりと至る。怪人は、ヒルコ狩りであり、ヒルコ狩りは、怪人なのだと。つまり、怪人を追うということはヒルコ狩りを追うということで、ヒルコ狩りを追うということは怪人を追うということなのだ。

なぜなら、目撃証言とヒルコが消える場所が大体において被っているからだ(ちなみにこのことはある程度調査を進めれば皆分かることで、大企業のエクゼク等は知っている)。「大体において」?と突っ込まれたら、ヒルコの行方不明側のほうが多少多いため、わずかな別件が含まれているのだ、と答える。わざわざミスリードされようとしてくれているのを

邪魔する必要はないが、一応あお無視してもいいんだなと思わせる)。

だがそれ以上のことは何も分かりそうになかった。政府の妨害が入っている。(\*3)『③トーキー』は熟練のトーキーとしての勘で気付いた。この捜査は明らかに行き詰まっている。誰かと合流しなければ、コレ以上の情報は望めないのだ。(はっきり『③トーキー』のプレイヤーに向けて言うこと)

『③トーキー』と『④カブト』はこの場面で最後まで合流しなくてもいいし合流しても解散していいし合流してもいい。

## ●イベント15: メルクマールの空

条件: 神業で情報収集【メルクマールの空】を開放する。

シーンプレイヤー: 『③トーキー』

登場: 超高達成値で可能ということにしてもよい。過去の出来事なので。

### ◆描写

メルクマール。ざあっと風が吹く草原の丘で、君は綺麗なドレスを着ている。君は可愛い女の子だ。現実でどういう見た目には関わらず、あるいは現実通りに、君はものすごい美人だ。着ているもの、装備しているものはすべて課金装備だ。値段は高くないが、タダ同然ではもちろんない。メルクマールの課金装備は性能は全く通常プレイの製品と変わらない。にも関わらず、君の装備は課金装備で固められていた。

その理由は、君がいつも笑顔を振りまいていたからだ。そして適度に人を助け、カッコつけたい奴からの贈り物は、適度なものだけ断らなかった。いつしか君の周りにはユーザーとユーザーが集まって、君は姫と呼ばれるタイプのプレイヤーとなった。

その中でもとびきり君を崇拜していたのが目の前の「パラディン」だ。パラディンは現実で言うタラとカブトとマヤカシを足して三で割ったようなこのゲーム中のスタイルだ。崇拜それ自体にしつこさはない。パラディンは端的に言って悪いやつではない。が、あまりに君にのめり込むそのパラディンに、君はどうにも心配になってしまった。まともな生活はできているのか? 君自身の安全も、ここまで崇拜が行き過ぎると不安になる。今日、君はこのパラディンと、なんとかして縁を切るつもりだ。「(姫プレイヤー)、今日も素敵だよ」

「綺麗な空だね。それ以上に綺麗な姫と、この空を眺められるなんて、僕はすごく嬉しいよ」  
「綺麗っていうのはアバターのことじゃない。僕は姫の人間性のことを言っているんだ。姫は透き通るように綺麗な人だ。僕は姫のためならなんでもする。僕はきっと姫のために生まれてきたんだ。何かして

### (\*3) 政府の妨害

神業によって突破できるが、単純に無意味なデータしか出てこない、これは工作等ではなく単純に隠しておいたほうがいいかと誰かが思ったがプレイヤーたちにとってはまったく関係がないため。

ほしいことがあったら、言ってほしい。僕は大人しい人間じゃないけど、姫のためだったら、一人一人ができることくらいなら、なんでもできる自信があるんだ」

PCにこっぴどく振らせる。  
(推奨:「君は君自身のためになることをやりなよ。不安になるよ」系)「……わかったよ。姫。嬉しいよ。姫が僕を気にかけてくれた。僕は、ほんとうに自分のやりたいことをやる。探してみる。街中を子供の頃からの思い出をさかのぼって。それがすべて終わったら、姫、僕と結婚してくれないか?」

PCの反応を待ち、どういう手段で記憶を蘇らせていたのかはわからないが、現実に戻らせる。適当な理由をつけて、この思い出こそが今の状況にぴったり合っているのだということにする。シーン終了。  
(単純な罵倒系)「なんで、そんなことを言うんだい?」

なんで、そんなことを言うんだ!? 姫えっ! いくらなんでも、酷すぎる……。何か、足りなかったのかな」ぶつぶつと呟き始める。もはや何も話を聞いていない。「そうだ……捧げるものが足りなかったんだ……世界で一番捧げ物を多く捧げば、きっと応えてくれる……世界だ……世界が……世界こそが……」

どういう手段で記憶を蘇らせていたのかはわからないが、現実に戻らせる。適当な理由をつけて、この思い出こそが今の状況にぴったり合っているのだということにする。シーン終了。

(他) RLの裁量で適当に。シーン終了。

## ■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

『①ヒルコ』『②カゲ』: E1、ヒルコ行方不明事件  
『③トーキー』: ストリートの怪人、メルクマール  
『④カブト』: ヒルコ狩り

### ◆E1

〈社会: ストリート、テクノロジー〉

- 7 『②カゲ』の近所で医者をやっている。カネを払うなら誰でも来い、と公言している。
- 13 腕の良さもあって、実際にその通りになっている。倫理観がないわけではなく、よくないことをしている人間には、それとなく説教をしているようだ。
- 16 かつて、とある企業(ここを聞かれた場合、日本軍の一組織と答えること辺りを勧める)の研究員として、誰かを殺し、攫い、悪事を尽くしていた。
- 21 ショタコン。

### ◆ヒルコの行方不明事件

〈社会: ストリート、警察〉

- 7 一ヶ月ほど前から、ヒルコが行方不明になる事件が多発している。
- 10 ヒルコの行方不明といえば、一年ほど前の、【BIOS社】による【墮胎児事件】が記憶に新しい。
- 16 音信不通になっていた『①ヒルコ』の友人とヒルコネットワークを介して接触できた。彼女は親友がヒルコ狩りにやられたために身を隠していたようだ。目撃者 E2 のアドレスを入手。

### ◆BIOS社

〈社会: ストリート、企業〉

- 7 ヒルコに近い分野の科学開発を行っている会社。
- 10 かつてはトップ企業だったが、今はその面影はない。依然一流企業ではある。過去、がむしゃらになって事件を起こし続けていた時期がある。

### ◆墮胎児事件

〈社会: ストリート、企業、警察〉

- 7 BIOS社がアスリートにいるヒルコを次々と誘拐した事件。世間的には当事者同士の和解が済んだことになっている。
- 10 実際は誘拐されたヒルコは研究目的で改造され、それによって前とは全く違う姿になったか死亡しかしており、和解なんてものが成立するような事件ではなかった。
- 13 解決したのはある研究員が一人のヒルコと一緒に逃げ出したため。ある研究員のアドレスを入手。

### ◆メルクマール

〈社会: メディア〉

- 5 IANUS 直結体感型インターネットゲーム。目を閉じるだけで、剣と魔法の異世界へ遊びに行くことができる。開発したのは【メルクマール社(名前を適当に変えても良い)】。
- 7 そこではこの世界と全く同じほどの自由度のことができて、戦闘、農耕、はては結婚まで可能だった。
- 10 (姫プレイヤー) はこのことをもうあまり覚えていない。当時はハマりすぎてリアルがおろそかになっていて、そのことが恥ずかしくて体が勝手に忘れようとしたのだ。
- 21 (+「空フラグ」) 君は仲間への助けが君自身の本気によって、それを思い出すことができる。【メルクマールの空】。



## ◆メルクマールの空

- 0 なぜか当時のことをどうしても思い出すができない。記憶をすべて洗えるような、特別な力が必要だ。

神業 イベント、「メルクマールの空」開始。

## ◆メルクマール社

〈社会：メディア、企業〉

- 5 メルクマールの開発によって一世を風靡した会社。法人格を取得したのはメルクマールが軌道に乗った後。流行った理由は基本無料で良心的なビジネスモデル。
- 7 カーライルシンジケートの関連企業によって買収された今は、だんだんとメルクマールそれ自体が阿漕な商売へと変貌しつつあり、それに反発してユーザーが減り、だからもっとお金を搾り取ろうとする、負のスパイラルが生じている。
- 12 非合法的な噂もちらほら。その中にはヒルコという単語も。『④カブト』がいる場合、上司のコネを通じ、カーライルの作業員のアドレスを入手。

## ◆メルクマール社の非合法的な噂

〈社会：メディア、ストリート〉

- 7 利用者はIPアドレス（この世界のIPアドレス）が抜かれている。
- 9 開発チームは残業月300時間を超えている。
- 11 ヒルコを開発に使った。
- 13 競合他社は特殊部隊が破壊工作で制圧している。
- 16 神業を使えば分かるかもしれないが、そもそもあの作業員が適当なことを言っただけかもしれない。

神業 メルクマール社は過去、体感システムの開発にヒルコを用いた。（\*4）

## ◆カーライルのレッガーが落とした紙

〈社会：メディア、ストリート、企業〉

- 9 メルクマール社のオフィスだ。メルクマール社のあるオフィスのアドレスを入手。
- 13 どうも不自然だ。偽装に偽装を重ねられているが、普通のオフィスとは、物と金の流れが違いすぎる。中で何の仕事が行われているのか、さっぱりわからない。（どういうふうに違うのか、と聞かれたら）物と金の流れが極端に少ない。

## ◆ストリートの怪人

〈社会：メディア、ストリート〉

- 7 ストリートに出没して、夜な夜なヒルコを攫っている。という噂。外見は、「学ランを着た男」、

かつ「チアガール」、かつ「パンツスーツの女」、三つ全ての噂が同じくらいの密度で存在しており、同一の怪人について語っている。

- 10 （『①ヒルコ』との合流）『①ヒルコ』のネットワークを探索した結果、ほぼ目の前で親しい友人を連れ去られた目撃者 E2 のアドレスを入手。

◆インヴァルネラブル・オーバードライブ  
なんでも

- 1 （行動回数消費なし）上司曰く、イワサキ社エンジニアの渾身の作品。花粉を介して周囲の人間のニューロンや IANUS を操作することで、認識を外し、使用者の完全な生還を可能にする。なお、完全な生還には、本人が以降物理的行動を起こさないことも重要。たぶん会話するだけなら大体は大丈夫。信頼できる部署と人間が作ったもの。

## ◆ヒルコ狩り（企業側の視点）

〈社会：企業〉

- 7 一ヶ月ほど前から、ヒルコが行方不明になる事件が多発している。証拠等はほとんど残っていない。ある程度警戒されたレッドエリアの犯罪は、誰にも止められない。
- 10 ヒルコの行方不明といえば、何を隠そううちの会社も、よく手頃なのを拉致ってきて、いろいろなことに使っている。
- 13 率直に言って、ヒルコはコマとしても実験体としても優秀だ。【ヒルコ狩りの手口】を考察してみるのもいいかもしれない。あとは、【ヒルコ狩り狩り】、だ！

## ◆ヒルコ狩りの手口

〈社会：企業〉

- 7 まず、レッドエリアに住むヒルコを、証拠を残さず殺害する理由はない。そういう趣味なのかもしれないが、ヒルコを利用したい大企業が跋扈するトーキョーでは、趣味と考えるよりは誰かがそうする理由があると考えるのがまず自然だ。
- 10 夜に集中しているのはヒルコの主な活動時間帯が夜であることから道理だ。（+『①ヒルコ』との合流）現場には格闘跡すら見当たらないため、精神攻撃を活用しているのだろうか。
- 13 何らかの方法で人間関係を探り、一つのコミュニティを根こそぎ拉致しているようだ。確かにこの方法なら残ったヒルコに対処されることはなく効率的だ。

## （\*4）神業の計算

フェアネスを意識する場合、この神業は真犯人とは全く別の集団が自分たちの利益のために隠したものであり、真犯人の神業は使用されていないと説明した方がいいかもしれない（シナリオ的に神業を使って隠蔽したのはメルクマール社）。

## ◆ヒルコ狩り狩り

〈社会：ストリート、企業〉

- 5 よし、現場を張ろう。特殊イベント「現場を張る」開放。内容は何もない。アンパンを食べるだけ。『①ヒルコ』と合流後、『①ヒルコ』と別行動を取っている状態で、イベント2が発生した場合、これをもう一度調べることで特殊イベント発動。
- 7 新進気鋭の政治家、ラウド・【コロミヤ】が怪しい。
- 10 【テラウェア社】が怪しい。
- 13 過激派宗教団体【ケモセラピー】が怪しい。

## ◆ケモセラピー

〈社会：警察、ストリート、メディア、アストラル〉

- 5 謎の宗教団体。よくヤバそうな集会をやっている。
- 7 氷の静謐から分化した団体。氷の静謐の分化元である真教は氷を聖なるものとして崇拝する普通の宗教なのだが、この団体はそれをさらに発展させ、全てを氷に還す（つまり殺す）ことを目的としている。で、そしてさらにその氷の静謐から分化した団体のケモセラピーは、ヒルコを殺して回っているイカレ集団。虎の威を借る狐。ケモセラピーの次の集会所のアドレスを入手。
- 12 組織の幹部などを入念に調べた結果、この組織の源流は、ヒルコ犯罪被害者家族の会。

## ◆E3

〈社会：警察、ストリート、アストラル〉

- 10 氷の静謐の工作員。かなりの初期からケモセラピーに関わっているようだ。
- 12 ファッションでは、フォーマルな制服がスーツ風味なカジュアル系の服装を好んでいる。
- 15 少し彼女が氷の静謐とケモセラピーに関わりだした時期の順番がおかしい。彼女はケモセラピー（過激化する前は別のもっと無難な名前だったのだが便宜上ケモセラピーとする）が過激化する前からケモセラピーの一員だったようだ。そして、もともと真教の敬虔な信者ではあったようであるものの、氷の静謐として活動を始めたのもほぼその同時期だ。

## ◆コロミヤ

〈社会：ストリート、メディア、企業〉

- 7 政治家の名前。生物学的性別は女性。
- 10 G I Dで、少数への配慮を訴える典型的なリベラル系のカリスマ。実績は本物で、男女ともに人気は高め。新進気鋭と言える。

- 13 美人で巨乳だが、ネット上では政治家としての演出としての、整形手術による胸囲ではないかと言われている。本物説も根強く、論争が激しい。キャッチフレーズは、「少ないを、応援する」。彼女が彼が力を握ればヒルコは大きく暮らしやすくなるだろう。むしろ、裏がないとも限らない。
- 16 【テラウェア社】のある役員の秘書を、実は兼任している。

## ◆買収しようとしている会社

〈社会：メディア、企業〉

- 7 チハヤではないか、と言われている。
- 10 他所では全く別のゲーム会社ではないかと言われている。
- 13 真偽は不明。神業を使えば分かるかもしれないが、そもそもあの工作員が適当なことを言っただけかもしれない。
- 神業 買収しようとしているのは【テラウェア社】だ。  
(\*6) トガウミ 18 開放済の場合空フラグ a。

## ◆テラウェア社

〈社会：メディア、企業、テクノロジー〉

- 7 ある天才が立ち上げた会社。今はその面影もなく、巨大な会社機構と化している。
- 10 北米流の強引な買収、強引な引き抜き他に、【ナンバース】と呼ばれる非合法部隊があらゆる不可能を可能とする。ヒルコを何に使うかは分からないが、とりあえず今一番なにかをやらかしそうなのはここ。
- 13 最近出世によって急激に頭角を現した若い役員がいる。彼もまた、ヒルコとの関わりが強いようだ。
- 18 その役員の名前は、アレノ・【トガウミ】。

## ◆トガウミ

〈社会：メディア、企業〉

- 12 忠実で優れた私兵と、政界にまで食い込む広い情報網によって、テラウェアの出世街道を駆け上った青年。変な髪型で有名。
- 15 私兵はエクゼクなら誰もが持っているが、彼の私兵はヒルコが多く特徴的。（＋『③トーキー』との合流）ウェア事情全般に詳しいあるトーキーのアドレスを入手。
- 18 （＋買収しようとしている会社の神業情報開放）メルクマール社の買収を提案した。空フラグ a。ab 両方揃ったら空フラグ。

## (\*5) 神業の計算2

フェアネスを意識する場合、この神業は真犯人とは全く別の集団が自分たちの利益のために隠したものであり、真犯人の神業は使用されていないと説明した方がいいかもしれない（シナリオ的に神業を使って隠蔽したのはテラウェア社）

## (\*6) トガウミがメルクマール社を買収しようとした理由

メルクマールというゲームを終わらせないためと、ついでにいつか世界を征服した末に、姫を探す時に使うため。

## ◆ナンバーズ

〈社会：ストリート、企業〉

- 7 テラウェアの実行部隊軍団。テクノロジーに頼り、ヒルコやマヤカシを比較的使わない傾向にある。
- 12 全ナンバーズ中、あなたが調べられる範囲では、ヒルコに少しでも関わりのあるものを使っている者は数人程度に満たない。

## ◆『①ヒルコ』が覚えていたフレーズ

〈社会：メディア〉

- 15 人気ネットゲーム「メルクマール」のある時期のメインテーマだ。空フラグ b. ab 両方揃ったら空フラグ。



## ルーラー向け、デバッグ

### ・襲撃できるアドレスの一覧を共有する

襲撃フラグが立った時点で、選択肢を紙か掲示板が何かに書いて、それをその場の全員が見られるようにすることが望ましい。

### ・襲撃についての説明

「そこをそれ以上調査することはできないの？」と聞かれたら、そこを調査することは既に襲撃 or 敵対行動なので、これ以上調査したら行き着くところまで行き着いてしまうのだ、という説明でかわすのが簡単。

### ・イベントキャラ (En) に名前をつける

推理難易度のユーザビリティを考えるなら付けなくとも良い。名前の有無でメタ推理をされる。

### ・合流しないと言われることが少ないのに合流するためのシーンがなくて (RP 上) いまいち合流しづらい問題

このサークルでベータ版をテストプレイした際、この問題が起こった。

ルール 13 からはこの問題を解決するためのイベントの提案であり、テストしていないので簡潔に書いてある。

全て起こす必要はないため、なかなか PC 同士が合流しない場合は、RL の裁量を以て、ルール 13 以下を参考にアドリブを込めて、イベントを起こす方がいい可能性もある。またイベント 2 については『①ヒルコ』単独でも起こせるようにしたのでマシになったと思われる。はじめは『①ヒルコ』と『③トーキー』の合流が必須だった。

### ・テーマについて

このシナリオは「人間 (スタイルを持ったキャラクター) でありたければ選択せよ」「選択 (= trpg) 讃歌」というテーマを持っており、それを裏付けるために、『④カプト』には助けに入るかどうか、『⑤トーキー』にはどうやって振るか (真犯人の動機の設定) を選択させ、かつクライマックスフェーズに入るためには選択肢を当てるが必要で、かつ調査系神業の使用先を二択で迫っており、全ての敵キャラクターが (あるヒルコの少女は除く) 選択できなかった、あるいはできていない者として描写されている。

ことあるごとにこのテーマを暗示するような局面を、プレイヤーに迫ることが望ましい。

### ・テーマ全然読み取ってもらえなかった問題

上の項を書いたあと参加者と会話したところ、全く読み取ってもらえていなかった。そのための解決策をいくつか書く。

ラウドと棺の死に際の台詞として、「私は結局騎士に守られる王女になることも姫に仕える王子様になることも選べなかった」「仕事は選ぶもんだな……今やっと分かったぜ」などと言わせる。

このシナリオでは読み物としての都合上他の単語になっているところを、「選択する」「選びとる」と言い換える。「そこで僕はトーキーの知り合いやニューロのコネを使って、何とか BIOS と戦う選択肢を選びとったのだ。……なんて、本当に誇らしく『選びとったのだ』とか言いたいなら、」 「なに、気にすることはない、『②カゲ』、君の選び選択肢に、正しい間違いないのだから」

### ・全てイベント見たら流石に大体わかるけど絶対イベント全部見れない問題

テストプレイでは執拗な誘導によってプレイヤーが全てイベントを見て、一発で正解を引いたが、どう考えてもメルクマールの空へは初見ではたどり着かないし、どう考えても医者には『①ヒルコ』は連れて行かない。これに関しては熟練かつ顔なじみの人間とやる場合のみ、行き詰まった状態で、「君には今できることがある」とだけ言って、十分程度の時間制限を設けてみるのがいかもしれないと考える。

そして時間が来るたびに襲撃を強制する。そのことに関する理由付けは適当に行う。

### ・PL が正解を選び取れた直後にクライマックスフェーズですって言っちゃった問題

テストプレイの際残り時間がなかったもので、特に考えず、PL が正解を選び取れた直後によし、ではクライマックスフェーズですってしまった。ちょっと空気が冷めた。

実際はトガウミが全部話したあと「これでクライマックスだよ！」などと言わせるのがベストと思われる。

### ・『③トーキー』が出来ること少なすぎる問題

それほど問題にはならなかったが、やはりフローチャート上は『③トーキー』が他と合流するまでのやることの少なさが目立つ。

## クライマックスフェイズ

## CLIMAX PHASE

### ●騎士は竜を倒し姫を助ける (\*7)

## ◆解説

トガウミと戦闘する。

## ◆描写

トガウミのオフィスは、テラウェア社のビルの一部屋だ。NOVAの外れに位置しており、都市中心部から乗り物で三十分程度かかる。レンタルウィークを借りた君たちは、今、ビルの目の前にいる。ビルには不気味なほど人の気配がない。警戒しながら中に入ると、パンツスーツのラブド・コロミヤが無言で、背後を向き、ついてこいと言わんばかりに建物の奥に消えた。テレビの中の彼女よりはるかに無口だが、確かにイメージには合っている。

ついでいくと、君たちはちょっとした広い空間に出た。どう見てもオフィスではないが、何に使う空間かもわからない。ホールか何かであるようだ。奥側が少し段差で盛り上がっているところを見ると、演劇の舞台のようにも見える。ぼうっと青い照明がなされており、だいたい見える。

男が拍手しながら舞台袖から出てくる。側には右肩だけで学ランを着た、上半身がチアガールで、下半身がパンツスーツの、右乳がない女と、スナイパーライフルを持った男が待機している。

## ▼セリフ

トガウミ「こんにちは！ いや、こんばんはかな。ずいぶんと僕達のことを嗅ぎまわってくれていたみたいだね。とうとうここにたどり着くなんて、大したものだ。できればお茶でも出してあげたいところだけど、うちの会社で君たちに提供できる応接間はここしかなくてね。だからお茶の代わりに、出せるものを出そうと思う」

「まあまあまあ、落ち着いて。君たちはこうして僕に  
 辿りつけたわけだけど、ホワイダニットについては多  
 分あんまりよくわかってないんじゃないかな？ ま  
 あ、わかりようがないかな。僕がしたいことって、何  
 だと思う？」

「それってさあ、実はさあ。驚かないですよ？」

「世界征服。なんだよねええええあはははははっ！」  
「凄いでしょ凄いでしょ？ 僕は今から世界を征服し始めるんだ！（推奨で振った場合と、そもそもメルクマールの空にたどり着かなかった場合）ずっと昔からの夢だったんだよこれえ！（単純な黒倒系で振った場合は何も言わない）古い付き合いの朋友「ラウド・コロミヤ」！ 金で雇った腕利き「棺」！ そして、命令通りに動く化物『①ヒルコ』！ もうさあ、理想のコンテンツの悪役そのものじゃないかな僕う！」

(イベント5をこなしていない場合) 合わせて『1ヒルコ』が裏切る。RLの操作下。神業によっての妨害は不可能と説明することを推奨するが、万能系神業二つで無理やり奪回できるようにしても良い。

(イベント5をこなしている場合) つあれ。裏切らないな……。おい！ 来いよ！ くそっ！（カチカチとボタンをならしてから、ボタンの付いた機械を捨てて）まあ、何があろうと僕達が最後に勝つことは間違いないんだよねえ……。代用品で我慢するよ！

(プレイヤーがエクスポーズ(神業)を使用した場合)  
(NPCのデウスエクスマキナで無効化してから)「あはははは！ 無駄！ 君たちがここから出られない時点で、そういう行為には、テラウェアという企業が抱える数千人規模のニューロたちの真髄と戦わなきゃいけなくなる。ま、出たから報道するんだねえ……」(使おうとした時点で、使用しても無駄ですよと警告しておくこと)

「さあああああ！　僕はこれから世界を支配する！　

君たちはその政府に捧げられる最初の死体だ！」

棺「というわけだ。これも仕事でね」

ラブド「……姫（感無量という感じで）」

## ◆カット進行

アレノ・トガウミ、ラブド・コロミヤ、棺、(裏切っている場合は)『①ヒルコ』、(裏切っていない場合は)ヒルコトループとの戦闘。アレノとラブドが近でエンゲージが2つ。ヒルコが至近。棺は超遠。

全員戦闘不能にすると勝利。

プレイヤーが神業を使って脱出した場合「あれ、逃しちゃった……なんてねえ！脱出戦へ以降。

## ●脱出戦

## ◆解説

プレイヤーが袖業で脱出した際に発動。

## ◆描写

ヴィークルで、放置されている工場と広い道路と夜の闇を駆け抜ける PC 達。

適当な PC が、何かに気付く（気付かせる）。PC の反応を待つ。

PCは気付く。空には背中に巨大な翼を生やし、右腕の代わりに右肩から生えた触手でスタンダードなヴィークルを持った(?)『①ヒルコ』。(システム的には、ミュートーションでコピーして追っている) (『①ヒルコ』が裏切っていない場合はヒルコの集合体(ヒルコ◎●ヒルコヒルコ)を使っているとする)

次の瞬間、クーデグラ×3。誤襲撃によるクーデ

(\*7) クライマックスのイベントタイトル

このタイトルに拘らず、決定された動機に相応しいタイトルで。



グラは棺のものなので、その分を引く。

このクーデグラは、インヴァナラブルを使えば二発分無効化できる。クーデグラを使っても一発無効化できる。その場合は無効化されたあとゲスト側がそのクーデグラを神業で防御する。万能系の神業は一つにつき一発無効化。

「逃さないよ……僕は世界の支配者になる……」

(推奨で振った場合と、そもそもメルクマールの空にたどり着かなかった場合)「これが僕のずっとむかしからやりたかったことなんだったはず……」

(単純な罵倒系)「そして、姫に世界を捧げるんだあ!」

(その他) 適当に。

「君たちは、その、最初の生贄になってもらう……!」

戦闘開始。カーチェイスのため『①ヒルコ』(あるいはヒルコの集合体)は参加不可。距離は超遠。(そして三ターン程度進めた後)攻撃をある程度凌ぎ切った。しかし、市街はまだ遠い。『①ヒルコ』が大きく右肩を振りかぶって、ヴィークルがずどおんと君たちの目の前に墜落した。地面はクレーターになっていて、すぐに乗り越えられそうにはない。中からアレノがこきこきと首を回しながら出てくる、

「なあ、ラウド、これでムチ打ちになったらさあ、労災おろるかなあはははは!」

戦闘続行。ヒルコの集合体はばらけてヒルコトループとなる。

(棺が死んだ場合)相手の銃は殺した。しかし、市街はまだ遠い。『①ヒルコ』が大きく右肩を振りかぶって、ヴィークルがずどおんと君たちの目の前に墜落した。地面はクレーターになっていて、すぐに乗り越えられそうにはない。中からアレノがこきこきと首を回しながら出てくる、

「なあ、ラウド、これでムチ打ちになったらさあ、労災おろるかなあはははは!」

戦闘続行。

### ◆カット進行

「騎士は竜を倒し姫を助ける」と同様。

### ◆結末

棺が死んだ場合、「くそ、報酬が……」とつぶやく。

ラウドが死んだ場合、「私は結局、男であることも、女であることも、選べなかった……」とつぶやく。

戦闘中はアレノは死なず、戦闘終了してから自動的に死ぬ。

(推奨で振った場合と、そもそもメルクマールの空にたどり着かなかった場合)「どうしてだ……やりたかったことをやったのに……」PCの反応を待つ。

『③トーカー』が「姫」であることを明かし、男で

ある場合)「姫……が男……なんてことだ……」「なんてな」「おーい、ラウド、良かったじゃないか。お前が結婚しても後ろ指を指されない女がここにいる。僕は少しおこぼれをくれればそれでいいや。三人で、電車ごっこ(性的な意味で)とかしようじゃなかあはは。おーい、ラウド? ……もう死んでるかあ」死ぬ。

『③トーカー』が「姫」であることを明かし、女である場合)「姫……そんな、まさか……」「綺麗だ……」死ぬ。

「人に迷惑をかけてはいけない」という「はあ? よくわからないことを言うな。僕は姫にもラウドにも迷惑なんてかけちゃいない。まあ今回は僕の負けだ、せいぜいつかの間の勝利を喜ぶがいいさ、なんてなあはは……」死ぬ。

(他) 適当。「姫……」と呟かせて死なせると上手く行く可能性が高い。

(単純な罵倒系)「姫……すみません……僕は……あなたのパラディンにはなれませんでした……」だけ言う。

PCの反応は待たずに死ぬ。



## トガウミの動機について

このシナリオにはいくつかの魅力的なポイントを作ったつもりだ。そのうちの一つが真犯人の動機をもプレイヤー側が選択(設定)できるという点だ。

しかし実はこの点については落とし穴がある。このシナリオがこうして存在する以上、トガウミが怪人事件を起こさないようにするという選択肢がありえなくなってしまうという罠だ。つまり選択がテーマなのに選択できない。トガウミへもっと献身的になんとかしてやりたくなるような人格を持つキャストがいることもあるだろうし、神業は万能であれという原則に則れば、「メルクマールの空」においても、(たしかに「過去なので神業は使えない」が一番スマートだが)神業があればなんとかできればならない。

一応その辺りについて補強すると、まずトガウミはもともとあまり幸福でなかった人生(特に詳細な設定があるわけではないので突っ込まれたら好きに作って構わない)とそれによる幼稚さのために「世界征服」(またはそれに準ずるくらい幼稚ななにか)を強く志向する傾向がある。ちょっと良くなった程度まで付き合っただけでは歪みは治らない。キャストが、フツウの人間なら心機一転頑張れるような素晴らしいことを言っても、それをそのまま曲解することができるゲストだ。

次にPCが神業を使った場合であるが、とりあえずシステム上は神業で対抗するとして、演出的にはラウドを使うのが良いと思われる。ラウドとトガウミは恋愛関係にないが同じ者に惚れた人間同士強い絆を持っている。理由はこれを利用して後からつけるとして、神出鬼没で身代わりになる、ブリーズでお願いするあたりが適当か。

対抗しないということも選べる。時空間を捻じ曲げるような強大な力を持つキャストの神業が使われたら、現在に戻ってきた時、事件なんて特に起こっていなかったという処理をできるかもしれない。その場合はこのままシナリオは終了か、別のクライマックスを即興で作る。あるいはトガウミ以外の見知らぬ誰かが同じようなことを起こしていた、いわゆる歴史の修正力ネタに頼ることもできる。

# エンディングフェイズ

ENDING PHASE

アレンジ自由。

## ●エンディング1

シーンプレイヤー：『③トーキー』

### ◆描写

時期は現在。君は大きな仕事を終えたあと、君の所属するオフィスで、君の上司に呼び出された。

▼セリフ：『③トーキー』の上司

「いやー、どこかいネタが上がったな。よく掘みきったもんだ、事の真相全部まで。一体全体どうやったんだ？」

「ま、いいや。よくわからないが、これからも頼りにしてる。今はゆっくり休むといい」

### ◆結末

PCの反応を待ち、メルクマールのサービス終了メールによってシーン終了。

## ●エンディング2

シーンプレイヤー：『④カブト』

### ◆描写

時期は現在、時期は現在。君は家で待機していたところ、上司に呼び出され、君の机がない広く慌ただしいオフィスで、机に座った昔なじみの上司の話の聞いている。

▼セリフ：『③トーキー』の上司

「よくやった、『④カブト』。お前は本当に仕事ができるな。頭をナデナデしてやる」(このへんは『④カブト』の設定次第で変える)(ものすごく親しいことがわかる描写であるのが望ましい)

「少し多めの休みをやる。次の仕事に向けて、ゆっくり英気を養え」

### ◆結末

PCの反応を待ち、シーン終了。

## ●エンディング3

シーンプレイヤー：『①ヒルコ』

### ◆描写

RLが奪った場合は、死ななかった場合のみ復活。ストリートに戻るか、『②カゲ』の家に住み続けるかを、当人同士で決めてもらい、それに従い前者ならストリートで、後者なら家で描写。

## ●エンディング4

シーンプレイヤー：『②カゲ』

### ◆描写

E1の診療所。

▼セリフ：E1

「聞いたよ、『②カゲ』。また、人を助けてしまったんだって？」

「私が危険な目にあっても、きっと助けてくれるのだろうね」

「今回の戦いは、君にとってどんなものだった？」(反応を待つ)

(肯定的)「そうか。良かった。話のヒルコとの結婚式には、私を呼んでくれたまえ」

(否定的)「裏切ったヒルコを殺した場合を想定」「なに、気にすることはない」「『②カゲ』、君のやることに、正しい間違いないのだから」

xyz.

## アレノ・トガウミ

エクゼク◎、クロマク、カゲムシャ●

## ▼設定

「なあウォーロック、——世界征服しないか!？」

テラウェアのエクゼク。引きこもりの頃に手癖で身につけた技術で、「ニューロ土方」として入社。その後努力を積み上げラウドと二人叩き上げて、コネと権力と財力のある、押しも押されもしないエクゼクとなる。本人は戦闘はできない。カゲムシャとしての宿主はラウド。

## ▼神業

貫収□ 腹心□ 神出鬼没□

## ▼能力値 / 制御値

♠理性: 5 / 12    ♣感情: 6 / 13  
♥生命: 4 / 10    ♦外界: 6 / 13

## ▼戦闘データ

[CS] 7                      [AR] 1  
[防御力] S:2 / P:2 / I:2

## ▼一般技能

2♠♣♥◇ 隠密  
1◇♠♥◇ 社会: 企業  
1◇♠♥◇ 社会: テクノロジー  
1♠♣♥◇ コネ: "JD" 和泉紗季  
2♠♣♥◇ ★回避

## ▼スタイル技能

1◇♠♥◇ レッグアレスト (TCL87)  
5♠♣♥◇ ドッベルゲンガー (TOS75)  
2♠♣♥◇ 権謀術数 (TCL69)  
1◇♠♥◇ †潜伏 (TCL87)  
2♠♣♥◇ †拾い聞き (TOS76)

## ▼アウトフィット

・フォーマリティ 電: 15 / 隠: 14 (TNX238)  
荒事もやるエクゼクの嗜み。社員証を首から下げ、胸ポケットに隠している。

## ▼戦闘プラン

潜伏してドッジしながら、可能ならレッグアレストで敵行動を妨害

## ラウド・コロミヤ

マネキン、カリスマ◎、カゲムシャ●

## ▼設定

「バラディン、——私は貴方と共にある」

トガウミの秘書。カリスマとしての顔と、トガウミの窓口としての顔を併せ持つ。人の精神を掌握する才能に長けており、トガウミが開発した学生服状の増幅器を使って戦う。カゲムシャとしての宿主はトガウミ。

## ▼神業

ブリーズ! □ 神の御言葉□ 神出鬼没□

## ▼能力値 / 制御値

♠理性: 4 / 10    ♣感情: 9 / 15  
♥生命: 4 / 12    ♦外界: 4 / 11

## ▼戦闘データ

[CS] 8                      [AR] 1  
[防御力] S:2 / P:2 / I:2

## ▼一般技能

1◇♠♥◇ 社会: メディア  
1◇♠♥◇ 社会: 企業  
1◇♠♥◇ コネ: 結城あや  
2♠♣♥◇ ★心理  
2♠♣♥◇ ★回避

## ▼スタイル技能

5♠♣♥◇ 大嫌い (TNX194)  
2♠♣♥◇ 毒舌 (TNX194)  
2♠♣♥◇ サプリミナル (TNX192)  
1♠♣♥◇ 黒子 (TOS74)  
1♠♣♥◇ †潜伏 (TCL87)

## ▼アウトフィット

・学生服 電: 15 / 隠: 14 (TNX238)  
盾にすればフォーマリティ相当の防御力を併せ持つ。  
・ディープスリート 電: 15 / 隠: 15 (TNX254)  
・カムマインド 電: 12 / 隠: (TNX254)  
精神ダメージを常に-2  
・WIZ-X 電: 12 / 隠: 13 (TCL107)  
・マジックボルト 電: 18 / 隠: 12 (TNX245)  
・ATスレイヤー 電: 14 / 隠: 13 (TNX245)

## ▼戦闘プラン

潜伏して機を見計らいながら、毒舌（軽減不可）+サプリミナル（要知覚）（+大嫌い（精+7）+マジックボルト（精+1）+ATスレイヤー（精+2）+ディープスリート（マイナー精+3）で16、20、21を狙い精神攻撃。

## 棺

カプトワリ=カプトワリ=カプトワリ◎●

## ▼設定

「仕事か。報酬は」

一流のカプトワリ。報酬を見て、来る仕事をただ受ける。棺状のライフルケースを持ち歩く。殺す以外のことは知らないし、何も覚えていない。

## ▼神業

とどめの一撃□□□

## ▼能力値 / 制御値

♠理性: 6 / 12    ♣感情: 0 / 12  
♥生命: 6 / 9    ♦外界: 9 / 15

## ▼戦闘データ

[CS] 6                      [AR] 1  
[防御力] S:0 / P:0 / I:0

## ▼一般技能

2♠♣♥◇ 社会: ストリート  
1♠♣♥◇ コネ: ドーリス  
2♠♣♥◇ ★射撃  
2♠♣♥◇ ★回避

## ▼スタイル技能

3♠♣♥◇ クイックドロー (TNX214)  
2♠♣♥◇ 貫きの矢 (TNX214)  
2♠♣♥◇ セキュアショット (TCL77)  
1◇♠♥◇ インターセプト (TNX215)  
1◇♠♥◇ ※魔弾 (TCL77)

## ▼アウトフィット

・ソリッドファントム 電: 18 / 隠: - (TNX236)  
P+9。どこでも買える千早製品。

## ▼戦闘プラン

インターセプト（達成値-9、AR消費）で妨害。隙を見てクイックドロー（達成値+3）+貫きの矢（差分値防御無視）+セキュアショット（攻+4）（+魔弾（リアクション・軽減不可））で攻撃。

## ■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。

『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

## ■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。

ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。

シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。

ホームページ (<http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/>) の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。

(このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります)

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

- ① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
- ② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
- ③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION 投稿型シナリオ共有サイト

NeuroCrowD

---

### 投稿シナリオ No.021 『メルクマールの空』

発行日：2015.12.29

執筆（著作権者） ゲームアニメ部 F J C  
イラスト なし

企画 ニューロ／CD製作委員会  
DTP まだら牛  
素材 Z-design

連絡用メールアドレス：dapple\_ox@gmail.com

サイトURL：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/